

地震編 第5章

【情報収集】

家族の安否を確認し、
災害の状況を知る



- 1 情報収集 p.067
- 2 家族の安否確認 p.071
- 3 SNSなどの利用 p.073

1 情報収集

==== ニュースで災害情報を確認 ====

災害の状況や避難勧告が出ているかなどを調べて、行動の参考にしてください。

停電時は携帯ラジオやスマートフォンで

停電するとテレビが見られなくなります。

事前の備え

停電時に使える
携帯ラジオなどを備える
pp.223-226



大阪市の防災アプリが役に立つ

防災アプリをインストールしていると、スマートフォンに自動的に災害情報が配信されます。



マニュアル

防災アプリケーションをインストールし体験する p.197

外出先では信頼できる情報を探す

駅や地下街、大きなビルでは非常放送で情報提供や避難誘導があります。デジタルサイネージ(電子看板)で随時情報を発信している場所もあります。



屋外では、公園などに設置された防災スピーカーなど、出所の信頼できる情報を探してください。

① 情報収集

コラム⑨
column

≡≡≡ 自分に必要な情報の入手 ≡≡≡

信頼できる情報源から地域の情報を収集



Twitter (ツイッター)
大阪市危機管理室公式アカウント
@kikikan_osaka

地域ごとの災害情報は、NHKやFM802で報道されます。聞き漏らしたときは、大阪市危機管理室や区役所のツイッター、テレビのデータ放送、インターネット上の防災サイトや防災アプリなどで検索してみましょう。

個人からの情報の扱いには注意が必要

「Twitter(ツイッター)」、「Facebook(フェイスブック)」、「LINE(ライン)」などSNSで流れる個人からの情報には、誤解がある場合もあります。発信元を常に確認しましょう。



災害時には誤情報が流れることも

災害時には意図的なデマ情報や誤解によって広まる情報など、事実とは異なる情報も流されるため、注意が必要です。

「ライオンが逃げた?!」

熊本地震では「動物園からライオンが逃げた」や「ショッピングモールが火事」など、フェイクニュースと呼ばれる意図的なデマ情報が流されました。

自分にかかわる情報は信頼できる情報のみを確認し、関係ない情報は拡散せず無視しましょう。



よくある早とちり

「避難所の避難者向けの入浴サービスを、誰でも入浴できると勘違いした人がSNSで情報発信し多数の人が殺到した」など、きちんと確認せずに情報を拡散すると混乱を招くことがあります。自分がデマの発信者にならないようにしましょう。

募集を中止しても支援物資が止まらない

テレビ・ラジオの取材やSNSなどで不特定多数に支援を要請すると、過剰な支援物資が届き混乱することはよく知られています。平成29年九州北部豪雨のときも「古いタオル大募集」に対し、必要以上のタオルが届けられ、募集中止の情報発信をしたあとも、募集情報が拡散されているという事例が発生しました。物資を募集する際は、送る前に問合せをってもらうなど、発信方法に注意が必要です。

② 家族の安否確認

==== 家族の無事と集まる場所を確認 =====

家族と直接連絡がとれないときにも集まれるように、複数の安否確認方法を使ってみましょう。



災害用伝言サービスを使う

通信制限などにより通話や通信ができなくなったときには、NTTなどにより災害用伝言サービスが提供されます。自分の状況や避難先を登録したり、家族の伝言を確認したりするのに役に立ちます。



災害用伝言ダイヤル(171)



災害用伝言板(web171)

遠くの連絡先に伝言役を頼む

被災地内の通話が制限されても地区外へは通話できる場合があります。被災地ではわからない情報を教えてもらえる可能性もあります。



行先施設の情報を確認する

子どもの通学・通園先、お年寄りの通院先などのホームページや災害用伝言サービスも確認してみましょう。



公衆電話を利用する

携帯電話やスマートフォンが通話制限を受けても公衆電話はつながることがあります。小銭を持って避難しましょう。



マニュアル 災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の使い方 pp.199-200



事前の備え 連絡方法や避難場所を家族で決める pp.227-229
自分や家族の防災情報メモをつくる p.230

③ SNSなどの利用

災害時は電話よりメールやSNS

地震直後は大幅に通話制限がかかりますが、メール・SNSなどは比較的制限を受けません。



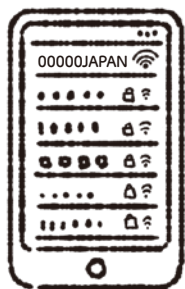
公衆無線LANサービスを使う

携帯電話・スマートフォンの中継施設が被災したときには、公衆無線LANサービスが開設されます。

ファイゼロジャパン

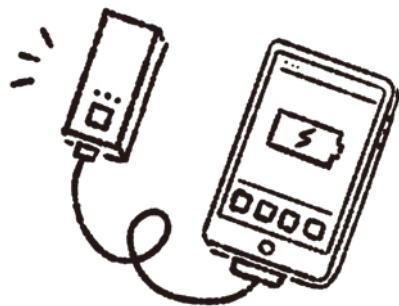
アクセスポイント「00000JAPAN」を選ぶ

※フリーWi-Fi利用と同様のセキュリティ対応をしてください。



電源を必ず確保する

携帯電話・スマートフォンが充電切れしないように気をつけましょう。



事前の備え 携帯電話などの乾電池式充電器を備える pp.223-226

災害時の通信手段

インターネットの特設支援サイトを利用する

災害時には、ショッピングサイトで緊急物資の仲介が行われたり、地図アプリを利用してエリアの生活情報がまとめて掲示されたり、インターネット上でさまざまな支援サービスが提供されます。各サービスのトップページに特設されることが多いため、使える情報がないか探してみましよう。

SNSでは、してほしいことをはっきり伝える

SNSを日常の連絡に利用している人は多く、災害時の安否確認にも活用されています。また書き込みがしやすいため身近な最新の情報収集に役立ちます。一方、「リツイート」や「いいね」で情報を広めるだけで何かに役立ったと誤解されがちです。平成29年九州北部豪雨で「#救助」で拡散された情報が救助に結びついたのは、フォローした人が自分の判断で119番通報をした1件だけでした。助けが必要な時には居場所などをきちんと書き、何をしてほしいかを伝えることが重要です。

大阪市防災アプリを使おう

大阪市防災アプリには、災害情報の自動配信のほか、避難や避難体験に使える防災マップ、自分や家族のための避難計画の作成や記録、危機管理室ツイッターの情報収集、安否確認など、必要な機能がそろっています。事前に使ってみて、避難場所など自分用の情報を入力しておきましょう。